

沖小だより



令和8年9月第13号
門真市立沖小学校
校長 吉川 茂樹

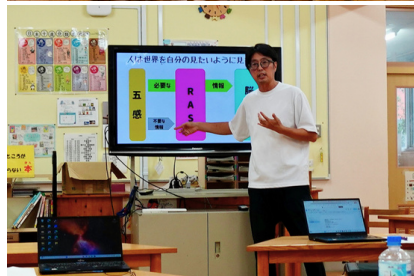
クラス会議がひらく「自治の力」

本校に愛知教育大学の深見太一先生をお招きし、ゲストティーチャーとして「クラス会議」の授業をしていただきました。3時間目から6時間目まで、4つの学年で実施していただき、放課後には教職員向けの校内研修も行っていました。

クラス会議とは、子どもたちが自分たちの悩みや困りごとを持ち寄り、対話を通して解決策を考えていく取組です。

クラス会議には多面的な教育的効果があるそうです。批判や否定をしない約束のもとで対話を重ねることで、**失敗を恐れず発言できる安心感**が育ち、いじめや不登校の予防にもつながります。また、困りごとをみんなで多角的に考え、自ら解決策を選び、実践し、振り返るプロセスは、**子どもたちの考える力を鍛えてくれます**。そして何より、友達の多様な考えや悩みに触れることで、**違いを認め合い、相手の気持ちに寄り添う力**も自然と身についていきます。

次期学習指導要領が示す方向性の一つに、「**当事者意識を持って、自分の意見を形成し、対話と合意ができる**」という力があります。クラス会議は、**自分たちの課題を自分たちで議論し決定していく実践**であり、この力をまさに日々の学級生活の中で育てていくものだと感じています。誰かに決めてもらうのではなく、**自分たちで考え、話し合い、決めていく**。そうした小さな積み重ねを大切に、子どもたちの中の「**自治の力**」を育てていきたいと思います。



教育新聞社の取材を受けました！

先日、教育新聞社の記者の方に、本校の様子を取材していただきました。テーマは「**次の学習指導要領**」。まず、私から先生方へ研修を行い、続いて**本校の5名の教員が記者の方から直接インタビュー**を受けました。



この内容は後日、新聞に2回にわたって掲載される予定です。どのような記事になるか、私自身も楽しみにしています。本校の挑戦が、より多くの学校に良い影響を広げていけるよう、これからも先生方と一緒に取り組んでまいります。



「えほんのひろば」で見つけた本との出会い

4階のカーペットの教室に、「えほんのひろば」がオープンしました。段ボール製の面展台に、絵本や写真集を表紙が見えるようにずらりと並べる取り組みです。普段の図書室のように背表紙だけが並ぶのではなく、**表紙の絵がそのまま目に飛び込んでくることで、「これ、なんだろう？」**という出会いが生まれます。

子どもたちは思い思いの場所に散らばり、寝転がって読む子、友達と顔を寄せ合って一冊の絵本をのぞき込む子、テーブルに並んだ本を夢中でめくる子——**一人ひとりが自分の読みたい本を自由に選び、思い思いのスタイルで本と向き合っていました。**

印象的だったのは、一人で静かに読むだけでなく、隣の友達に「見て見て」と本を差し出したり、先生の肩をつかんで絵本をのぞき込んだりする姿があちこちで見られたことです。「えほんのひろば」は、本の楽しさや面白さを誰かと分かち合うことで、**本にぐっと親しみを持てるようになる**、そんな仕掛けになっていました。

これからも、**子どもたちが自然と本に手を伸ばしたくなるような場を大切**にしていきたいと思います。

「休む」ことも大切な学びです！おひるねゴロゴロタイムが始まります！

先日の児童集会で、生活担当の新盛先生から「睡眠の大切さ」についてお話がありました。元気に学校生活を送るには、学ぶことや体を動かすだけでなく、**心と体をしっかり休ませることも大切です。**

そこで来週から、昼休みに新しい取組「**おひるねゴロゴロタイム**」を始めます。希望する子どもたちが、フリースペースやAL教室で10～15分ほど、横になったり座ったりしながら静かに過ごす時間です。照明を少し落とし、リラックスできる音楽を流しながら、「**何もしないで、ゆっくりする**」時間を大切にします。学校生活には、「**がんばる時間**」と「**休む時間**」の両方が必要です。まずは一週間、試してみます。

「**休むことも、学びの一部。**」そんな感覚が、子どもたちの中に育っていけばと思っています。

